

「インプット型からアウトプット型の学びへ」

～探究的な学びのゴールにプレゼンテーションを据えて～

吹田市立南千里中学校

1 本校の生徒の現状と課題

本校は創立46年めにあたり、生徒数は370名で市内18中学校の中では規模は小さい方である。地域は最寄駅から新大阪駅まで十数分で利便性が高く、マンションが立ち並ぶ地域で、就学前から義務教育終了までに転出入を経験する家庭が多い。また、学びに前向きで、安心して生活できる環境がある。生徒は、1小1中のため入学当初からよく知った友人関係があり、相手を問わずペアワークなどの活動も自然体で行える。課題としては、全国学力・学習状況調査での質問「将来の夢や目標を持っていますか」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の肯定的回答率はここ数年、全国値を下回る傾向にある。また、友人とのトラブルや学習面での悩みなど、課題が生じたときに自己解決する力や粘り強く対応していく力については課題が見られる。

2 めざす生徒像及びその具現化について

そうした課題をふまえ、本校教育目標及びめざす生徒像をこのように設定している。

自ら学び、ともに繋がり、やり抜く生徒の育成

- ・自ら学び最後までやり抜く生徒
- ・お互いを認め合い、高め合う生徒
- ・心身ともに健康な生徒



教育目標の具現化として、3つのアプローチを設定することとした。

(1) 学習指導要領に沿った授業づくり

本校学力向上委員会では、研究テーマを『自ら課題を発見し、仲間と共に解決して、考えを深めよう』とし、この3年間、学習指導要領に沿った授業づくりを行い、生徒に求められる資質・能力の育成をめざしてきた。毎年3回、校内研究授業を位置付けているが、昨年度は市教育センターとの連携により、理科、国語の市内公開授業を2回ずつ、また数学の校内研究授業も展開した。今年度は数学、理科、国語について校内研究授業を実施している。特に、理科については“生成AIを活用した授業”として、新たな授業デザインを提案している。

(2) インプット型からアウトプット型の学びへ

～オープンマインドの礎 英語授業～

本校には府加配教員として、英語コーディネーターの配置があり、7年めを迎えている。現在は、指導教諭として2年めの教員が担当している。英語の授業では、日頃より教室の廊下にも響く声で、楽しみにペアワーク等、活動する姿が見られ、2、3年生では教科書教材から自らの考えをまとめ、英語でのプレゼンテーションで交流するような取組みも重ねてきた。対話的な授業を通して、オープンマインドの礎として英語科は位置づいている。

令和5年度全国学力・学習状況調査での英語に関する質問の肯定的回答率(全国値比)は、「英語の授業の内容はよくわかりますか」の項目で90.9%(63.9%)、「1、2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか」の項目で92.5%(63.8%)という結果を得られている。



(英語での探究プレゼン)

(3) インプット型からアウトプット型の学びへ～探究的な学びのゴールにプレゼンテーションを据えて～

前述のように、本校では英語科の授業をベースとした自由な表現活動ができる土壌があり、そうした学びのスタイルを、英語科に留まらず、各学年、各教科等で広げていけないかと考えた。学力向上委員会に提案したところ、各学年でテーマを設定し、年に複数回、プレゼンテーションができるような取組みを試行していくこととなった。昨年度から全学年での取組みがスタートし、今年度で2年めとなる。標題にある“インプット型からアウトプット型の学びへ”という学びの軸のもと、総合的な学習の時間や各教科横断的に、“探究的な学びのゴールにプレゼンテーション”というギミック(仕掛け)が学校全体として共通のものとなった。そして、その結果が生徒一人一人に身につけたい力として、成果を実感できるものになってきている。

3 今年度の取組みとその成果について

本市では令和2年度に1人1台端末が導入されたが、5年が経過し更新時期を迎えた。小学校ではiPadを、中学校ではWindows機を配備していたが、この度

中学校にも iPad が配備されることになり、デジタル環境の一新が図られた。そこで、昨年度から本校で進めていた“探究的な学び”を柱に据え、その基盤を支える ICT 環境整備として本市教育センターより、本校を先行導入校として位置付けていただき、他校に先立って授業活用を推進すること、その成果を市内発表するミッションをいただいた。iPad の利便性、高機能性により各学年における“探究的な学び”をさらに後押しし、以下の取組みを今年度展開してきたところである。

学指導要領に沿った授業改革（探究→プレゼンテーション）			
	1年	2年	3年
R5	数学 グラフコンクール →データ分析		☆英語(府教委授業視察)
R6	国語 好きなこと	総合 キャリア 教育	国語 数学 統計 三大歌集より ☆文科省 ヒアリング
R7	国語 短歌イメージプロジェクト 自己紹介 実習ブック 障がい者スポーツ調べ 作成	社会 歴史 記者会見形式	数学 統計 三年分の定理解説 国語 パブリックスピーキング 社会 政変調べ 技術 オリジナルライオン紹介

英語科 やりとりを重視した対話型授業→プレゼン発表(2年UD・3年絶滅危惧種・ガンジーの是非・My Dream・・・)
☆iPad活用市内公開授業R8.1.20

(1) 第1学年

“わくわく・どきどきSDG s ジュニアプロジェクト”

昨年度の1年生でもテーマをSDGsとしたグループ探究を実施していたこともあり、今年度は「2025年日本国際博覧会協会教育プログラム」を活用し、本プロジェクトに参加することとした。

本探究では、SDG s の実現に向けて「すべてのいのちが輝くアイデア」を考えることがねらいとなる。各クラス6チームで探究するテーマを決め、1学期末から2学期にかけ、取組みを進めてきた。11月には4社の企業に来校いただき、中間指導として、アイデアミーティングの

機会をいただいた。

(その様子→)



アイデアミーティングでは企業紹介から実際に実行されている企業の取組みを知ることができた。また、プレゼンテーションに対していただいた意見をふまえ、さらにブラッシュアップを図った。アドバイスをいただいたことを深め、新たに企業側の観点も盛り込み、自分たちの視野を広げて社会へ通じる観点について考えることができた。プレゼンテーションを練り直し、12月には各クラス内発表を行った。さらにその代表2チームによる学年発表を設定した。審査の観点は「課題の設定、解決の道筋」「情報の収集・整理・分析」「アイデアの魅力」「まとめ・表現」とし、学年代表を選出した。

その後、大阪府教育庁市町村教育室小中学校課主催の“SDG s ジュニアフォーラム”1次審査(動画)を通過し、2月には本フォーラムでのプレゼンテーションの機会をいただくこととなった。

テーマはSDG s 2「飢餓をゼロに」。内容は、世界的な飢餓の解決のために、“カプセル自販機”により、近隣の国へパイプを用いて食糧を届ける、食品ロスにも貢献する、というアイデアを提案した。1年生なりに探究した内容をプレゼンテーション資料にまとめ、チームで分担して発表できたこと自体がステップアップの機会となった。また、府内広範囲の他校先輩の発表の場に参加できたことも、自分たちの学びのロールモデルとして大きな刺激をいただいた。1年生のうちに自分たちの参画をふまえた学校を越えた経験ができ、次年度以降の学びに対するモチベーションへ大きくつながっていくものと考えられる。

また、学年発表6チームのうち環境問題を取り扱った上記発表を含めた3チームについては、本市公益社団法人千里リサイクルプラザ・吹田市主催“第27回環境学習発表会”において、動画発表(くるくるプラザホームページ掲載)により発信中である。他のテーマは、SDG s 12「つくる責任つかう責任」。内容は、“使用履歴ラベル制度”によりリサイクルに役立てるもの。SDG s 14「海の豊かさを守ろう」。内容は、“ゴミと商品を交換するステーション”を提案した。

学年発表直後の振り返りで、「1学期末に行ったプレゼンテーションと比較し、その出来栄えやiPadの取扱いについての変容」「お互いの発表を通して友だちへの新たな気づき、よさ、頑張りなどの発見度」「学ぶ楽しさ(いろいろ考えて楽しかった。楽しみながら学べた。もっと調べてみたい。次はこんなことを調べてみたい。)の度合い」について5段階で尋ねたところ、肯定的な回答が多く見られた。本取組みにおける探究を通じて得たものは、SDG s への理解はもとより、情意面では自らの成長や友だちへの気づきをもち、さらにはまたやってみたい、学びたいと実感できたことである。また、プロセス自体が主体的・対話的で探究的思考を働かせた協働的な学びであること、これらはテストでは測れない力であるが、今後、社会で活躍していくときに大いに必要な力となっていくこと、こうした学びの機会を捉えて、さらに成長していく姿に期待しつつ、生徒たちへ講評として伝えたところである。

(2) 第2学年 “キャリア教育”

本校ではいわゆる“キャリア教育”を重点的に取り組

んでいるのが2年生である。コロナ禍で休止していた職業体験を昨年度再開し、今年度に継いでいる。その一大イベントに向けて数々のプログラムを計画、実施してきた。中学校学習指導要領解説特別活動編では、「キャリア教育は特別活動を要としつつ学校教育全体で行うものである。日常の教科等の学習指導においても、学ぶことと自己のキャリア形成の方向性とを関連付けながら、見通しをもって職業的・社会的自立に向けて基礎となる資質・能力を育成するなど、教育課程全体を通じてキャリア教育を推進する必要がある。」とある。その意義をふまえて、2年生では、取組みごとのワークシートや職業体験学習実習ノート、キャリアパスポート等での記録や振り返りを重ねて自己理解を深め、キャリア形成につなげている。

【1学期のねらい及び取組み】

“自分のやりたいことや得意分野にこだわって突き進む力”を育成する。

- ・「働く」ことについて考える
- ・「働く目的」って何やろう？
- ・どうして人は働くのだろう
- ・お金について考えてみよう ・プレゼンの極意
- ・自分の生き方を考えよう（「将来の夢は？」進路学習）
- ・自分を見つめよう（わたしってどんな人？自己診断）

☆“What kind of work?”（探究→プレゼンテーション）
調べたい職業を選び、3枚のスライドにまとめて発表する。資料は2学期の総合文化発表会での展示作品として掲載する。



【2学期のねらい及び取組み】

“情報を元に企画・立案し、社会で必要な力”を身につける。

- ・主体的に取り組む力
- ・課題を解決するアイデアを生み出す力
- ・演技やプレゼンテーションなどの経験を通して人前で発信する力
- ・チームで協力してひとつのことに取り組む力（その達成感を共有する）

☆総合文化発表会“TIME TRAVEL ～oshigoto 編～”
学年を“過去・現在・未来（パフォーマー・プロデューサー）及び総合アシスタント“の4チームに分けて、時代を代表する仕事について探究し、オリジナル作品にまとめ、舞台パフォーマンスで発表。

【2学期後半から3学期のねらい及び取組み】

”将来実社会の中で自分の個性を発揮し、社会人としての役割を果たしていくための力“を育成する。

☆2年生 キャリアの日“学んで活かせ”

○大阪市内の6専門学校へ（午前）

- ・体験授業を通して、自らの将来について考える

○吹田ロータリークラブ出前授業（午後）

- ・弁護士、司法書士、弁理士、税理士、名誉院長、旅行業・宅地建物取引代表取締役、ファイナンシャルプランナーから2講座を選択し、職業の専門性や生き方を学ぶ

☆職業体験（市内中心に41事業所にて2日間体験）

- ・意識の高い職業観を養う
- ・家庭や地域の人々との連携を深める
- ・主体的に自らの進路を考えて選択できる力を養う
- ・将来を見据えて今後の学校生活を有意義に過ごす

☆進路学習

- ・進路って？（自分を知る “ERABO” サイト紹介）

【職業体験学習実習ノートより 保護者感想（抜粋）】

・初めての体験の驚き、発見、関心が大きかったようで、たくさん話をしてくれました。働く大変さ、やりがい、チームワーク、様々な事を学べたと思います。
・今回の体験で自分自身への気づきもあったようで、すぐく成長があった2日間だったなと思いました。
・娘にとって将来へのイメージがより具体的になったと感じます。とても成長を感じました。将来、社会の一員として自分ができる事、自分がやりたい事をよく考えるととてもいい機会をいただき感謝しています。

(3) 第3学年 “理科×〇〇” 探究

中学校学習指導要領解説理科編では、「自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を目指す」とある。1年時「理科と興味があることを結び付けた探究」、2年時「理科と他教科での学びを興味あることと結び付けた探究」、3年時「過年度の経験を経て、実験を交えて興味あることと結び付けた探究」をテーマに取組みを継続してきた。昨年9月には3年生全員が3年間の集大成として、5分間で個人探究をクラス内で発表した。さらに、そのゴールとして、本年1月、クラス代表3、4名が校区の小学校に出向き、6年生向けに再編集した内容でプレゼンテーションを行い、質疑応答も含めた学びの交流を行った。

【6年生感想】

一見簡単そうなことでも実際は本当に深くて、自ら正

解を見つけていくのってかなり難しい事だけだからこそ「探究する」っていうのは本当に大事な事なんだと改めてわかりました。興味がある事をひたすら自分で策を練り 0 からやるってことはやっぱり興味があることに限るのかなと思いました。今日知ったことを心に刻み、中学校頑張ろうと思います！

【発表者感想】

この3年間の探究を通して「仮定、動機、検証、結果、考察」の構成が上手くなり、発表において大事なことなど数多くのことを学ぶことができた。この活動は必ず役に立ち、将来にも必要とされることを理解でき、大変有意義なものだったと思っている。私たちが小学生に発表したことで、少しでも伝わっていたらいいと思う。ありがとうございました。

また、令和7年度全国学力・学習状況調査での理科に関する質問の肯定的回答率(全国値比)は他5項目も含めて良好な結果となり、探究の成果と捉えている。

- ・理科の勉強は得意ですか 65.9%(50.7%)
- ・理科の勉強は好きですか 75.3%(63.8%)
- ・理科の授業の内容はよくわかりますか 86.3%(71.4%)
- ・将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか 35.8%(21.7%)
- ・理科の授業で学習した知識を普段の生活の中で活用できていますか 67.5%(54.7%)
- ・理科の授業で学習した考え方を普段の生活の中で活用できていますか 63.2%(50.7%)

4 結びに

“インプット型からアウトプット型の学びへ”～探究的な学びのゴールにプレゼンテーションを据えて～を掲げ、2年間取り組んだ成果として、

- ① 主体的・対話的で協働的な学びの具現化
- ② 探究的思考の形成(科学的思考、数学的思考…)
- ③ ICTスキルの向上
- ④ プレゼンテーションスキルの向上(*)
- ⑤ 相互理解の高まり(他者への気づき、リスペクト)
- ⑥ 自尊感情、自己肯定感、達成感、自己の変容を自覚
- ⑦ 学びのモチベーションの高まり(学ぶ楽しさ)
- ⑧ 学びの集団としての高まり

等、認知能力のベースに培われた非認知能力の高まりが生徒の振り返りや発表の様子から実感できている。ロールモデルは教室の仲間であり、探究のプロセスで

は自立した学習者、教員は伴走者という場面も見られるようになってきている。

*令和7年度全国学力・学習状況調査での「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器(本校iPad)を使ってプレゼンテーションを作成することができると思いますか」の肯定的回答率(本校全生徒/3年生全国値)は94%(76.6%)。【令和7年10月末時点本校調査】

【3年間理科探究を継続した3年生の感想】

- ・数々の探究を行い、クラスメイトの発表を見ることを経て、自ら目標を設定し、調べ上げることの重要性、そして、自分の知りたいことを徹底的に追求し、その結果を共有することの面白さ、さらに見つけた疑問点から新しいことについて学ぶことができるということに気づかされ、探究学習はやってよかったと思った。
- ・自分で考え試行錯誤し続ける力、失敗などに行き詰まっても取り組む姿勢、自分で学びを創り出す力や課題を乗り越える力など大きな成長があったと感じた。

上記に加えて、何人もの生徒が出願時の自己申告票に探究の学びでの手ごたえや自己変容に触れていた。本校課題として挙げた将来への目標、社会へのアプローチ、自己解決力、粘り強さについて、こうした取組みにより、自己の成長を実感できるまでになっている。

今回、本資料からキャリア教育の充実に向けて～というお題をいただいたが、中学校学習指導要領解説特別活動編では、「キャリア教育は学校教育活動全体を通して行うものであるという前提のもと、これからの学びや自己の生き方を見通し、これまでの活動を振り返るなど、教育活動全体の取組みを自己の将来や社会づくりにつなげていくための役割を果たすということである。」とある。本報告では主に各学年の取組みから見られた情意面での高まりという変容からキャリア教育がめざすねらいに通じていくと考える。今後はすでに次期学習指導要領に向けた「論点整理」に取り上げられている“探究的な学び”の充実と、その基盤となる“情報活用能力の育成”を意識しながら引き続き教育活動全体を捉えたキャリア教育の推進に努めていきたい。



↑ (3年生代表による6年生への出前探究プレゼン)

学校HP  南中  学校 
 トップページ  ブログ  だより 